

## かながわ子ども教室

ニ

ュ

ー

ス

第98号

## 川崎市青少年フェスティバルに参加して

櫻田（くにぎた）昌也



2024年3月10日、川崎市が主催し、川崎市教育委員会が共催する川崎市青少年フェスティバルが例年通り川崎市とどろきアリーナで開催されました。このフェスティバルは川崎市青少年育成推進委員会が実施しており、実行委員会を高校生・大学生がになって子供たちのお祭りのための企画を考えるという、実行側も参加側もどちらも楽しみながら学びの機会を得られものになっています。

かながわ子ども教室は、2010年から「おもしろ科学実験教室」として参加していますが、昨年度はたまたまフェスティバルのテーマ（タイムトラベル）と当教室の内容が合わず、今回は2年ぶりの参加となりました。

今年度のテーマは「ゆめまつり」というもので、川崎市から「ぶんぶんゴマで色を混ぜてみよう」と「ペットボトルで雲づくり」の2教室に参加依頼がありました。こちらからは「ぶんぶんゴマ+光の3原色混合実験（30分間/回、定員24名）」と「雲づくりと雷発生器による雷デモ（30分間/回、定員21名）」を提案して了解をいただきました。

当日のアリーナ内のイベントへの参加は事前申し込みをして抽選で選ばれた午前・午後各300組の方々となっておりますが、開場時刻の10時から続々と親子の皆様が当方教室にやって来られました。事前に準備しておいた整理券をお配りして、それぞれの回の時間に合わせて集まっていたいただくことをお願いしました。これはスムーズな運営にたいへん寄与したと思われま

「ぶんぶんゴマ+光の3原色混合実験」では、前半で光の3原色と色の3原色を説明し、子供たちに前へ出てきてもらって赤・青・緑の3原色のライトをホワイトボードの同じ場所に照らしてどんな色に見えるかという実験を行ってもらいました。同じ場所に光をあてるように言われるとお互いに相手の光を追いかけっこするように動いてしまっかなか重ならないことで会場の笑いを誘っていましたが、それでも2色ないし3色が重なった時にできる色を実際に見ると驚きの表情に変わっておりました。後半は、白黒およびカラーのぶんぶんゴマを作ってもらいました。低学年の



子供たちでも思ったよりもハサミを使って上手に工作ができて、コマを回すと色や模様が混じる様子を楽しんでくれました。



「雲づくりと雷発生器による雷デモ」では、初めに、氷・水・水蒸気の水の三態から始めて、水蒸気による気象の変化など身近な現象の説明を行い、そこからペットボトルを使った雲作りに進みました。ペットボトルに空気を送り込んで圧力を高めるのは思ったよりも力が必要でしたが、栓を外して空気がボトルの外へ噴出した瞬間にボトルの中に雲ができるのには皆がびっくりしていました。後半は、積乱雲の話から、

高圧の静電気を蓄積する装置を用いて電極間に放電させることで雷の模擬実験を行いました。

当日は教室の途中で音楽とともに、会場内で「ゆるキャラパレード」が始まり、子供たちは一瞬何？何？と気を取られていましたが、すぐに教室の方に気持ちを戻していました。外の楽しそうなイベントに惑わされずにしっかりと教室を聞いたり作業をしたりする子供たちはちょっと意外でもあり、頼もしくもありました。



当方教室は午前・午後とも各回満員で、子ども 355 名、大人 286 名、合計 641 名の方が来場されてサポーターは交代で休む暇もないくらいの大盛況でありました。目標とおり、親子ともども理科に興味をもっといただくことができたものと思われまます。最後になりますが、ブースの設営を行ってくださった川崎市のスタッフと青少年ボランティアスタッフ、そして受付・来場者

整理・来場者カウントに御協力くださったシニアボランティアスタッフ（全員写真で白色上着を着用）の皆様に厚く御礼申し上げます。

## かながわ子ども教室

松下 恵造

令和5年4月から令和6年3月までの1年間の活動について、報告いたします。

令和5年5月に「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」へ移行した後も新型コロナウイルス感染者の発生は第9波～第10波と継続しましたが、教室の開催に大きな影響を受けることなく活動することができました。その結果、令和5年度の教室開催数は114回となり、令和5年度基本方針で目途とした115回をほぼ達成できました。また、昨年度の教室開催実績（118回）ともほぼ同等レベルとなりました。ただし、児童参加者は昨年度より約1500人少なくなっています。「教室」での児童参加者が少ない理由は、本年度の方が1教室あたりの参加者が少ない教室が多かったためであり、「フェスタ」での児童参加者が少ない理由は、昨年度のねんりんピックは2日間の開催で、4教室に自由参加ができて実験時間が短いため983人が参加できましたが、本年度の川崎市青少年フェスティバルは1日だけの開催で、2教室（定員21～24名/30分サイクル）しか開設できず355人に限定されました。

	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
科学教室	110回	20回	55回	107回	108回
暮らしの教室	17回	2回	7回	9回	5回
フェスタ	4回	0回	1回	2回	1回
教室開催数合計	131回	22回	63回	118回	114回
会員参加者	912人	87人	309人	745人	735人
児童参加者	4,576人	468人	1,534人	4,596人	3,107人
教室	(3,369人)	(468人)	(1,38人)	(3,603人)	(2,752人)
フェスタ	(1,207人) ねんりんピック	(0人)	(148人) 川崎市フェスタ	(983人) ねんりんピック	(355人) 川崎市フェスタ
保護者等参加者	1,271人	85人	353人	955人	894人

新規教室では「真空」教室と「プログラミング2」教室の開催が開始され、「真空」教室が7回、「プログラミング2」教室が8回開催されました。またリニューアル有れた「宇宙」教室は6回開催されました。それぞれの教室では開催後に聴取する開催先の皆さまの感想や助言と当方サポーターの助言を参考にして、より充実した内容になってきました。

会員数は令和5年4月末に37名でした。その後3名の方が入会されましたが、残念ながら逝去が1名、退会が2名、休会が1名有りましたので、令和6年3月末では36名となりました。



かながわ子ども教室の活力維持のため、今年度も新規会員の増加を図ることが重要課題です。ダイヤかながわ交流会とかながわ子ども教室の皆さまには「募集チラシ」を活用して、新規会員の勧誘にご協力をいただきますよう宜しくお願いします。目標は5名です。

## 新入会の御挨拶

### 櫻田 昌也



このたび入会させていただきました櫻田 昌也（くにぎた まさや）と申します。

1958 年生まれで、2024 年で 66 歳になりました。出身は兵庫県で、淡路島で生まれて、甲子園球場がある西宮市で育ちました。ですので、2023 年はたいへん幸せな年でありました。海が近いところで生まれ育ったことや、釣り好きの父親の影響で小さいころから釣りに親しんでおりましたので現在でも三浦半島や湘南へ船釣りにたびたび出かけております。

大学・大学院では物性物理学を専攻し、AGC（入社当時は、旭硝子）では、LCD（液晶表示素子）、有機 EL 表示素子の開発と量産化、スマートフォン向けのマルチタッチパネルスクリーンの量産、そして最後は液晶向けガラス基板の海外お客様技術対応を行ってきました。

そろそろ会社生活も締めくくりという頃に LCD 素子開発時代の先輩であります松下恵造さんから偶然に「かながわ子ども教室」にお誘いをいただき、上記の経歴が何かしらお役に立てるならありがたいことだと思い入会させていただきました。

三菱グループということで、このような御縁をいただけたことに感謝しつつ、一方で存分に楽しみたいとも思いますので、どうぞよろしく願いいたします。